

2024 第 64 号

千葉支部だより



J・A・C



令和 6 年 1 月発行

発行元 (公社) 日本山岳会千葉支部
〒285-0837

佐倉市王子台 6-38-4 松田方

発行者 松田 宏也

編集者 小川 和敏

E-Mail cib@jac.or.jp

(表紙の絵)

羽黒山五重塔 (出羽霊山)

水彩画 小菅 一弘

2023 を振り返る

支部長 松田宏也

2023 年は多くの人との出会いの年だった。年始めからの房総復興プロジェクト登山道整備、その縁で千葉県山岳・スポーツライミング協会 (略CMSCA=チムスカ) に加盟し県内山岳会との繋がりをつくることができた。2 月の北海道スキーでは北海道支部の白石ルームで賑やかに交流会を開催していただいた。札幌国際で芳賀孝郎大先輩と一緒にスキーができたことは大変光栄な思い出となった。春からはニーズの高い初級登山教室を開催した。講師側も教える難しさとその重要性を実感することができたに違いない。安全登山と新しい仲間が入るきっかけとしても内容を充実させながら継続していきたい。

コロナが第 5 種となり、5 月支部総会、6 月 JAC 総会、7 月青森支部創立 30 周年記念を祝った東北・北海道地区集会、8 月「山の日」支部ビアパーティ、久しぶりに大人数での集まりとなった。9 月は群馬での全国支部懇談会。昔登った一ノ倉の大岩壁が光り輝いていた。10 月からは厳しい残暑から逃げ出すように紅葉の山に遊んだ。信越トレイル、東九州支部にお世話になった九重の山、そして栃木での四支部懇談会の高原山、その後立ち寄った福島支部の霊山青柳山荘では手作り料理で歓待を受け翌日は霊山に登った。昨年コロナ感染で無念の欠席となった晩餐会、今年は多くの会員と顔をあわせることができた。

房総 Base は開設し 3 年目に入った。他支部の方々も多く訪れ、NHK ラジオの山カフェの石丸謙二郎さんも遊びにきてくれた。また、元 JAC 会長の平山善吉氏から山岳書寄贈があった。ダンボール 11 箱もの寄贈であった。初版本もあり貴重な山岳書がズラリと本棚に並ぶことになった。およそ 600 冊はありそうだ。房総 Base の価値が一段あがったように思われた。これからも多くの方に房総 Base を利用いただき、山の話語り合う場になってほしいものだ。

本部の支部事業担当理事として 33 支部に会員増と退会者減の方策についてアンケートをとったが、ここ 3 年間で会員が増えている支部は 9 支部 (北海道、秋田、群馬、多摩、千葉、石川、岐阜、京都滋賀、熊本) であった。うれしいことに千葉支部もわずかであったが会員増支部の仲間入りとなった。千葉支部の山行、同好会活動は年々活発になって、それをホームページで新鮮な情報として発信をつづけてきたことが会員増につながってきたのだろう。

さて、辰年の 2024 はどんな年になるか。皆さん、今年も多くの支部と交流をはかり山と人の織りなすクラブライフをたっぷり楽しみましょう！

2023 年 4 月からは全ての会友の期間は 2 年間とする。(現在入会している会友は 2025 年 3 月まで)
会友の期間終了後は会員もしくは準会員を選択してもらおう。なお、70 歳以上の会友は特別会友として対象外とする。また、70 歳以下でも山岳活動の講習等ができる方も対象外とする。

(年齢は 2025 年 3 月末時点とする)

[目次]

・自然学クラブ巡検—水上温泉と一ノ倉沢	山口 文嗣	p 2
・山行記録		p 3
人気小屋・燕山荘に連泊、噴気上がる焼岳		
・第5回初級登山教室	小栗山 大介	p 4
・初級登山教室を終えて	松田 宏也	p 5
・山行記録		p 5~8
大岳山でルートミス、晴香園との交流事業が復活・どんぐりがいっぱい鎌倉アルプス、 小川山でクライミング、高齢登山で那須岳、金峰山・圧倒的な五丈岩、遠かった光岳		
・こんにちは	成田 知彦	p 8
・あの日の山	—聖山カイルス— 津田 麗子	p 9
・各支部との交流が盛ん—支部懇談会ほか		p 10~12
全国支部懇談会、四支部懇談会、福島支部と霊山へ、九州・九重の山旅、台湾・南湖大山		
・山行記録		p 12~14
ちょっと怖かった二ツ箭山、信越トレイル、秋の高原山は寒かった、快適だった檜洞丸		
・年次晩餐会が盛大に開催	三田 博	p 15
・登山道整備を兼ねて鎌倉古道を検分		p 16
・ウォーキングクラブ報告	宇津木 仁典	p 16~17
・支部山行の予定		p 17~19
・事務局からのお知らせ		p 19~20

自然学クラブ巡検

山口 文嗣



第20回巡検 水上温泉と一ノ倉沢

10月8日(日)~9日(月) 晴

L 三木雄三、吉永英明、吉野聡、岩尾富士夫、
宇津木仁典、能見勝弘、鈴木操、斉藤和紀、
高橋琢子、廣村恵美子、山口文嗣
(11名)

10月の紅葉時期に合わせて、谷川岳の一ノ倉沢探勝と水上温泉を楽しんできました。

今回は温泉を楽しむことも目的のひとつだったので、集合は8日夕方までに各自水上の温泉宿に集合という予定であった。しかし天気予報も良く、季節も紅葉真っ盛りの時期のため、何人かは早朝に出発し、天神平散策や、一部元気のいい人達は天神尾根を中腹まで往復してから宿に集合した。

天神平からはトマの耳、オキの耳、白毛門はもちろん、遠く至仏山まで眺められた。



夜は水上駅からほど近い古い宿で温泉を堪能し、参加者一同とゆっくり懇親を深めることができた。

翌9日も天候にめぐまれ、水上駅よりバスで谷川ロープウェイ駅まで行き、旧道をのんびり歩いて一ノ倉沢まで行った。一ノ倉沢出合からちょっと上流に登り、三木リーダーより過去に氷河により削り取られた岩が堆積したモレーンと氷河地形のレクチャーを受けた。

ロープウェイ駅まで戻る途中、谷川岳登山指導センターの下にある谷川岳山岳資料館に立ち寄った。ちょうど在館していた八木原罔明館長(前JMSCA会長)より丁寧に案内、説明をして頂いた。

今年は10月まで夏の暑さが続いたためか、期待していた紅葉は今一つであったが、晴天に恵まれ、久しぶりの一ノ倉沢も堪能でき、楽しい山行であった。



50歳未満は、千葉支部への入会金と年会費2年間分を免除します!

千葉支部への入会には経験・年齢の制限は設けていません。身近な人で登山経験者や登山を始めてみたい方がいましたらご紹介ください。入会希望者向けの「ガイドンス山行」に参加できます。日本山岳会への入会もご相談に乗ります。特に若い方が入会しやすいように、50歳未満の新入会員は入会金1,000円と2年間の年会費(正会員1,500円又は会友3,000円)を免除します。

人気小屋・燕山荘に連泊

小川 和敏

※個人山行

山行日/天候：9月4日～6日（曇り雨、晴れ、曇り）
参加者；CL 節田重節、SL 小川和敏、梶田義弘、
宇津木仁典、羽藤美代子、高橋琢子、吉田望、
平出正美（8名）

一番人気の燕山荘に連泊して、燕岳ほかを散策という計画だ。中房温泉に泊まり、翌日に北アルプス三大急登の合戦尾根を登る。生憎と半分くらいの行程で雨に打たれつつ、第一ベンチから第三ベンチ、富士見ベンチを経て、合戦小屋に。名物のスイカに全員が舌鼓。ここから燕山荘ま



では多少の登りと尾根歩き。雨もあまり気にならず。およそ6時間で到着。乾燥室に急ぎ、レインウェアほかをセットする。部屋で一服し、

夕食前に当然ながら生ビールで、夕食後はオーナーのお話と有名なホルン演奏を満喫した。

翌日の中日は天気予報が外れて見事な晴れに。小屋のす

ぐ前でライチョウの家族が朝食中。燕岳に向かうと、雲に隠れていた槍ヶ岳がその全貌を現わしてくれた。頂上で皆が狂喜乱舞。槍ヶ岳の姿を楽しみつつ小屋に戻り、思い思いの昼食を頂く。午後は大天井岳方向への散策へ。イワツバメ、イワヒバリなどに迎えられ、ゆっくりとゲロ岩までを往復する。大きな岩でビックリ。



帰る日は、疲れたところに急な下りが待っている。朝は、小屋前からの360°のパノラマ展望。遠くは富士山からアルプスの山々が見え、リーダーからの各山名の説明がうれしい。それにしても、当初からの山小屋連泊予定とは初めての経験。何とか、皆が無事に下山して中房温泉でさっぱりし、穂高駅に移動して反省会。思ったよりも天候に恵まれ、楽しい楽しい山小屋山行となった。



噴気上がる焼岳

中田 彩

山行日/天候：9月9日（晴時々曇）
参加者：CL 小川和敏、SL 三品京子、齋藤米造、斉藤和紀、
三田芳江、中田彩（6名）
タイム：中の湯温泉 6:00→焼岳登山口 6:10→下堀沢出合
8:10→稜線 9:00→焼岳北峰 9:15→昼食休憩
9:15~10:00→下山開始 10:00→コーヒー休憩
10:15~11:00→焼岳登山口 13:20→中の湯温泉
13:30

朝6時前に集合、準備体操ののち出発。先頭は斉藤さん、良いペースで進みます。ラストは小川さん、マイペースで進みます。



初めは急登、その後は霧のシラビソを眺めのんびり歩き、森林限界あたりからはまた急登。霧が晴れて山頂が見えもう少

しと喜んだが、なかなか辿り着かず・・・
山道脇には赤、白、黒の実。クロマメノキは甘酸っぱくて美味、シラタマノキはサリチル酸の香り。

稜線にて火口を眺め、ガレた道を頂上へ。黄色い岩から噴気が上がり、温かい岩あり。活火山を実感。10分程度で頂上。雲で遠くは見えないが、清々しい。

のんびり景色を楽しみ下山。途中でリーダーがコーヒーを振る舞う。美味！あとは岩の多い道をひたすら下る。

途中、野外調査中の信州大学理学部大学院生に出会う。焼岳の噴火履歴の研究で地層を観察しているそう。楽しそうに語ってくれました。良い研究者になってね。



いろいろありましたが、想定範囲内で無事下山。最後は中の湯で入浴し、帰途へ。

山も温泉もメンバーも最高の山行でした。ありがとうございます！



● 今年度の初級登山教室が終了しました ●

千葉支部では令和5年度に会員・会友向けに初級登山教室を開催しました。※来年度も継続予定です。

テキストには、JMSCA（日本山岳・スポーツクライミング協会）の「夏山リーダー」テキストを使用。机上講習の場所は、津田沼のヨシキスポーツYYルーム。14：00～16：00でした。

【登山教室カリキュラムと日程】

終盤は下記の日程でした。

9月2日（土）机上⑤山の病気と救急法 / 9月3日（日）実技⑤大菩薩嶺

9月30日（土）～10月1日（日）実技のみ⑥ 山で泊まる、食糧計画（山小屋泊）

第5回初級登山教室

小栗山 大介

9月2日（土）机上⑤「登山の病気と救急法ほか」
参加者：小栗山大介、斉藤和紀、山口隆史（会員外）
/スタッフ：三田博、三品京子（5名）

9月3日（晴れ）実技⑤—大菩薩嶺—
参加者：小栗山大介、斉藤和紀、成田知彦、山口隆史（会員外）、末吉千穂美（会員外）
/スタッフ：三田博、三品京子（7名）

第5回登山教室に参加した。テーマは「登山の病気と救急法ほか」として、初日は登山中のケガや病気について学ぶ。誰しも起こりうる傷病に対して、その症状や予防、処置法を知ることが登山者として大いに意義のあることだと感じた。講習には資料を使ったケーススタディもあり、自ら考える良い学びとなった。

2日目は大菩薩嶺を歩いた。晴天に恵まれた山行であったが、強い日差しと残暑もあり水分不足や熱中症には注意して大菩薩の絶景を楽しんだ。素晴らしい眺望に見惚れると思わず休憩も忘れがちになるが、三田リーダーが計画の中で適宜入れてくれる休憩のタイミングは大変勉強

強になる。またガレ場を下山する際の三品サブリーダーの注意喚起も、ケガ予防には必要な声かけである。諸先輩方の行動から学び、自身の山行に活かしたいと思う二日間の教室であった。



第6回初級登山教室

小栗山 大介

日時：9月30日～10月1日（晴れ、雨）実技⑥—八ヶ岳
参加者：L松田宏也、成田知彦、小栗山大介（3名）
タイム：9/30 赤岳山荘 11:25～赤岳鉱泉 14:30
10/1 赤岳鉱泉 8:00～赤岳山荘 10:40



第6回登山教室に参加した。今回は山小屋に宿泊しての二日間に渡る山行である。初日に赤岳山荘駐車場から赤岳鉱泉まで登り、鉱泉で一泊、翌日に硫黄岳を往復する計画だ。二日間の食糧や装備を検討したり、山小屋での過ごし方等を学ぶ予定だ。初日は東京の猛暑とは一転、秋を感じさせる涼しさのなか赤岳鉱泉までをのんびりと歩く。お風呂で汗を流したあとは鉱泉名物のステーキに大満足。世の中は狭いものでお風呂で一緒だった方が JAC 東海の会員であることがわかり、広い個室部屋でワインを片



手に紹介を兼ねての山談議となった。2日目は硫黄岳の予定であったが、夜半から降り出した雨がやみそうにない。やむなく硫黄岳は中止とし、下山することになった。冷たい雨に悩まされながらの下山であったが、低体温症について考えることは第五回登山教室で学んだ『山のリスク』の実践にもなり大変勉強になった。また、「計画変更して下山する」決断を実際に経験できたことは今後の自身の山行に大いに活かせる貴重な体験であった。計画していた硫黄岳への登頂は果たせなかったが、仲間と過ごす夜の時間や山が好きな者同士の新しい出会い等、今回の教室もまた忘れられない山行となった。



計画していた硫黄岳への登頂は果たせなかったが、仲間と過ごす夜の時間や山が好きな者同士の新しい出会い等、今回の教室もまた忘れられない山行となった。



初級登山教室を終えて

山を楽しむためにはひとりひとりが安全に歩ける知識と体力と経験が必要です。「誰でも最初は一年生」だから、初めての方や昔習っても忘れていたことを学び直す機会が千葉支部の初級登山教室です。基本の基本さえ身につければ、あとの技術向上は本人が学ぼうとする意欲にかかっています。座学で知識をつけても、果たして山でそれを発揮できるか？何度も何度も繰り返しの復習で自然に身につけていることが自覚できれば卒業です。

知識を使う知恵を確実につけるために一番良いのは山に行くことです。いま自分はどこにいるのか？どこに向かうのか？天気予報は確認したか？現地で西の空の天気をチェックしているか？基本の装備は持ってきているか？今日の体調に問題ないか？・・・それが基本中の基本です。「私を山に連れてって」から脱皮すれば、山はもっともっと楽しくなります。

そのための初級登山教室です。不安な方は参加して基本の基本を学ぶことを推奨します。自立した登山者を育てるのは日本山岳会の使命でもあります。（松田 宏也）

● TOZAN Fes.2024 について ●

2024年2月17日(土)～18日(日)に千葉・鋸南町を主会場に「TozanFes. 2024」が開催されます。主催は公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)です。主管団体は、私たち千葉支部も今年度から加盟した千葉県山岳・スポーツクライミング協会(CMSCA)です。

このイベントは、JMSCAがおこなってきた「全日本登山大会」で今回が59回目になります。千葉が会場になることにより、全国から関係者を迎えることとなります。また多くの一般登山愛好者の参加も見込まれます。千葉支部からも、当日は係を下記Dコースに派遣する予定です。

《一般参加登山イベント》

2月17日(土) 受付 浜金谷駅 9:00～9:30 ※ 参加費：5,000円

登山イベント(バスで各コースに分かれ登山) 9:45～16:00

- ・Aコース 「むかし花嫁が歩いたみち」をたどる(約5時間)
- ・Bコース 鋸山の一等三角点を訪ね「東京湾を望む道」を歩く(約4時間半)
- ・Cコース 清澄山系の中心を歩き日蓮ゆかりの清澄寺へ(約5時間半)
- ・Dコース 梨沢セツ釜を周回する鎌倉古道、房州アルプスを歩く(約5時間)



大岳山でルートミス

今井 貴朗

山行日/天候：9月16日(土) /曇りのち雨
 参加者：L今井貴朗、三品京子、香高真奈美(3名)
 コースタイム：御岳山駅 9:35→奥の院峰 10:50→鍋割山 11:10→大岳山頂 12:30/12:55→鋸山 15:00/15:10
 →愛宕神社駐車場 17:40→奥多摩駅 18:17

ケーブルカーにて御岳山駅へ、大岳山に登り鋸尾根を経て奥多摩駅に下る日帰り縦走コース。雲が低く垂れ込んだ御岳山駅からまずは御岳奥の院を目指す。分岐鳥居からは本格的登山道へ。まずは頂調に急登の先の奥の院峰へ、暑さも加わりこの時点で汗だく。9月半ばなのにまるで真夏の山。暑さを振り切るように黙々と鍋割山を経由して大岳山登頂、汗だくで喜び合いランチタイム。残念ながら山頂付近は霧が濃くて展望は全くない。山頂から鋸山へ向け荒



れた急坂を下ると見慣れない分岐で初めてルートミスをしたことに気が付く。地図で確認すると1つ隣の尾根を下るルートだが分岐直進すれば目的の鋸尾根ルートに合流するはず。だが直進は木枝閉鎖されており登山道の荒れ具合からここは労力を惜しまず

急登を引き返し30分ロスと疲労を受け入れた、リスク回避の王道を選択。山頂直下に戻り、再度地図確認すると少しトラバースすれば山頂に戻らずにルート合流、私が先行確認して鋸尾根ルートに戻る。この時点で下山予定時刻を17時と見積り、明るい内に下山可能と判断。

その後、急登を上り下りした疲労と落胆が加わってペースがガクッと落ちるが、適度に休息を取りながら鋸山への最後の急坂に登りきる。休憩を十分とりこの先の岩場交じりのルートを慎重に進み始めると本格的に雨が降り始める。雨具を着込んで濡れて滑り易い木根、岩に注意しながら慎重に下山。厳しい箇所には最近ハシゴが追加されたようで、このような状況の時は嬉しい。ペースを落としながらも雨でぬかるんだ登山道を順調に下り17時40分に愛宕神社駐車場着。雨と疲れでまいりながらも、ここからアスファルトの舗装林道を下り奥多摩駅へ。何とか明るいうちに無事到着出来て嬉しかった。距離が長い分、歩き切った満足感は大きかったが、ルートミスで余分な疲労を味あわせてしまったことは大いに反省しなければならない。



● 晴香園との交流事業が復活 ●

コロナ禍の影響で2020年1月の弘法山ハイキングを最後に中断していた児童養護施設「晴香園マウンテンクラブ」との交流事業が3年ぶりに復活しました。そして、復活後3回目が実施されました。

ドングリがいっぱいの鎌倉アルプス 中田 彩

山行日/天候：11月11日（曇）
参加者：晴香園（児童4名、引率3名）、L 三木雄三、
香高真奈美、高橋琢子、國宗文、竹内進、塩塚生二、
山口文嗣、中田彩（15名）
タイム：北鎌倉駅 9:50→明月院 10:10→勝上嶽 10:50→
十王岩 11:10→分岐 11:15→大平山
12:10-12:40（昼 食）→天園 13:00→
瑞泉寺 13:45→鶴岡八幡宮 14:30

曇り、肌寒いが風もなくハイキング日和。風情ある街並みを川沿いに進む。紫陽花で有名な明月院を抜け、急坂を登り、尾根へ。歴史的保存地区に指定され、街のそばとは思えぬ照葉樹林が広がる。落ち葉を踏みしめながらゆっくり歩く。現れた岩で地層観察。礫が混じっているのは川だったから。断層も発見。
十王仏にお参りし、小さなアップダウンを進む。ツルツルの急な下り、てこぼこに削れた岩、たまにロープの岩場。アスレチックのようだと、楽しそうに進む。



お腹を空かせつつ頑張って歩き、大平山に。大島、天城、箱根を一望し、昼ごはん！6年生は自分で弁当を作ったそう。デザートも堪能し、出発。

左には横浜のビル街、奥にスカイツリー。良い眺め。休憩ではどんぐり拾いに夢中。大きい、丸いの、帽子がついたの。両手にいっぱいのだんぐりが今日のお土産。長い下りは歌い、笑いながら進む。鶴岡八幡宮でゴール！がんばったね。童心に戻り、たくさん笑い、元気をいただきました。



小川山でクライミング

三田 博

※個人山行

山行日/10月7日（土）～8日（日） 晴れ・曇り
参加者：L 平野直子、上条誠一郎、三田博（3名）
当初、穂高で岩登りする予定で前夜発したが、天気予報で北アルプスは降雪する可能性との事から高速途中のSAで急遽相談。結局小川山でクライミングをすることになった。清里の道の駅でビバークし、朝一番で廻り目平キャンプ場に到着。3連休という事もあり、駐車場はかなり混雑していた。テントを張っていったん場所を確保、川上村まで買い物などしたのち、いよいよクライミング。



まずはガムスラブ。平野さんがロープを張ってくれてトップロープで登る。私は久しぶりのクライミングだったのを買ったばかりのシューズだったので、やさしいルートでもス

ラブを登るのが少し怖かった。何本か登った後はソラメスラブへ場所移動。ここで本部の松原尚之ユース委員長とユースメンバーにバッテリー。ご一緒させていただき、ラッキーな事についてコーチングもしてもらった。夜もテントにお誘いいただき、酒席を囲む。クライミングやユースクラブのいろいろな話が聞けて楽しかった。



翌日は松原さんのおすすめルートに連れてってもらい、一緒に登る。エキスパートの平野さんはもちろんグイグイ登り、上条君も若いから上達が早い。一人ダメだった私は、もう少し本気で練習しようと反省いたしました。

高齢登山で那須岳へ

斉藤 和紀

※個人山行

山行日/天候; 9月26日~28日 26日(曇)、27日(雨)、28日(曇)
 参加者: CL 宇津木仁典、SL 小川和敏、平出正美、斉藤和紀(4名)
 タイム: 26日: ロープウェイ山頂駅 10:20~茶臼岳 11:35~朝日岳 14:10~熊見曾根 14:45~隠居倉 15:25~三斗小屋温泉煙草屋 16:35
 27日: 煙草屋 8:00~沼原分岐 8:30~峰の茶屋跡避難小屋 9:45~10:10~沼原分岐 11:10~煙草屋 11:45
 28日: 煙草屋 7:25~沼原分岐 8:00~沼原三斗小屋分岐 9:00~姥ヶ原 9:40~牛ヶ首 10:20~ロープウェイ山頂駅 11:00

一日目; 新人の私は多少の気負いを持って茶臼岳を見ながら準備体操。リーダーの号令の下茶臼岳登山をスタート。ガレ場の連続で経験の浅い私にはリーダーのペースがありがたい。一時間強で茶臼岳山頂に到着し軽食を取りながらの休憩。眺めている連山の名前が分かれば二倍楽しめると思うと知識のなさを痛感する。休憩後、朝日岳に向かうが近づくにつれ山道が狭くなり初の鎖場を経験。リーダーの気を付けて小股で進むようにとの注意喚起があり進むも恐怖心はピークに。先輩たちの歩行を見て経験値の違いを実感。朝日岳山頂からの眺めは、遠方の連山にとぎれとぎれの雲が掛かり



趣のある風景を觀賞する事が出来た。宿となる三斗小屋温泉へ。隠居倉の手前まではガレ場の連続、隠居倉を過ぎると山道の景色が一変し樹木帯に変化。

の雲が掛かり

樹々の景色に癒されながら煙草屋旅館に到着。

二日目; 朝から雨、憂鬱な気分。メンバーから今日は湯治に切り替えようとの声上がる。私としては初めての雨での山行を期待していたので、「斉藤は雨の山行の経験はないだろうから経験させようか!」とのリーダーの声に、心の中で「やったァー」。峰の茶屋跡避難小屋往復4時間ほどのコースで実施。雨の山行は思っていた通り暑さ、蒸れとの戦いであった。唯一楽しめたのは湧水「延命水」場での給水休憩、平均年齢70半ばの4人が延命を願い延命水を



をがぶ飲み、この世に対する執着の深さを確認することとなった。余談だが峰の茶屋跡避難小屋は唯一携帯の電波が拾える場所の為、携帯中毒者の救済の山行でもあった。また、先輩から降雨時の歩行の注意事項、「滑りやすいので木の根には乗らないこと」とのレクチャーがあり、その後、先輩に転び

の実践を見せて頂いた事を教訓として今後の山行に活かしたい。

三日目; 出発時は時々晴れ間の覗く天候であったが、途中から雲中歩行となった、私にとっては初めての雲中歩行。もっと視野が遮られるのかと思っていたが意外と遠視が効いたのにはビックリ。ただ湿度100パーセントの歩行は汗との戦いであった。見どころは紅葉の素晴らしさであったが、現実には緑の風景を眺めながら、紅葉をたまに一本見つけては、はしゃぎ、写真を撮り・・・の歩行となった。途中、雨が降ったり止んだり、後に青空がのぞいたり山の変化に翻弄されつつ、終点のロープウェイ山頂駅に到着。

今回の山行は私にとっては、貴重な経験と得るものが多い山行となった。



金峰山・圧倒的な五丈岩

三品 京子

山行日/天候: 10月14日(曇)
 参加者: L 今井貴朗、末吉千穂美、三品京子
 タイム: 大弛峠 8:30→旭岳 9:45→11:15
 金峰山 12:00→朝日岳 13:10→大弛峠 14:10

勝沼インターから大弛峠へ向け車を走らせて行くと、遠くに金峰山山頂が見え天気が良いので登山前から気分も上がる。運よく登山口近くに駐車でき、早々に身支度を整えストレッチをして登り始める。緩やかな登りと下りが続く足に優しい登山道を一時間程進むと、パッと目の前が開けガレ場に出た。山並みの奥に富士山が見え多くの登山者たちが撮影している。



私たちも撮影タイムとなる。ここから富士山を従えながら歩くと、間もなく朝日岳に到着、鉄山は迂回し山頂へ向かう。

今日一番の急坂を一気に下りそこから緩やかな登りを進むと、西~東側の景色が開け瑞牆山・八ヶ岳・そして雪を被った北アルプスを望むことができた。稜線を進み山頂近くになると歩きにくい岩稜帯が現れる、慎重に岩の上を渡り山頂へ到着した。

広い山頂の奥に鳥居そして五丈岩が圧倒的な存在感で迫ってくる、今朝遠くから眺めた山はこの姿だったのかと納得。雲もなく秋空の下でゆっくり昼食を取り、思い残す事が無いよう山々を目に焼き付け大弛峠へと下山した。

遠かった光岳

宮崎 美智代

※個人山行

山行日/天候 10月21日～23日(全日晴れ)
 参加者 CL 小川和敏、SL 三品京子、三田芳江、
 宮崎美智代(4名)
 タイム 21日; 芝沢ゲート 13:20→易老岳 14:30→
 面平テント場 16:40
 22日; 面平テント場 6:35→易老岳 10:00→
 静高平 13:10→ イザルヶ岳 13:40→光岳
 14:30→テカリ石 14:45→光岳小屋 15:15
 23日; 光岳小屋 5:20→三吉平 6:30→易老岳
 7:30→易老渡 11:50→芝沢ゲート 13:10

1日目; 途中の高速で2カ所ほど渋滞に遭い芝沢ゲートには2時間ほど遅れの到着となってしまった。今日は今年から一般開放された面平のテントサイトまで3時間強の行程。面平は水場がないため各々水を持ち林道から登山口へ。紅葉し始めた林の中、休憩をとりながら面平までの急登を登った。テント場の既設のテント内には厚めのマットも用意され、幸い強い冷え込みもなくお陰で朝まで快適だった。

2日目; まず目指すのは易老岳。ずっと上りで易老岳に着いた頃には疲労困憊だ



った。立ち枯れの木々の中、少し長めの休憩を取った。ここからは300メートルほどの下り。三吉平から1時間ほど足場の悪いガレ場を登り返し静高平の水場で水補給。イザルヶ岳で360度の大パノラマを満喫。手前に聖岳、兎岳と右横に富士山、遠くには冠雪した北アルプスも見えた。小屋にザックを置き光岳へ急ぐ。更に、山名の由来となったテカリ石へと向かう。大きなテカリ石に登り景色を堪能。今日は下りと登りという飽と鞭を繰り返した。小屋は新しく寝所の厚いマットなど快適。その上、この日はダシの効いたおでんとおいしいご飯を頂けた。



3日目; ヘッドライトの明かりを頼りに5:00過ぎにスタート。やがて、空が朝焼けに染まる。各チェックポイントを確認しながらよく登ったと一歩一歩下りながら思った。さすがに最後の急坂ではみんな疲れが出たが、下山後楽しみにしている蕎麦屋に間に合うようにと力を出し切った。

♪ こんにちは ♪



はじめまして。千葉県市原在住の成田知彦(なりたともひこ)と申します。2023年6月に千葉支部に入会させて頂きました。

5月の富山(とみさん)登山教室に体験参加したのをきっかけに興味を持ち入会を決めました。

出身は福島県会津若松市で、高校生までは磐梯山や裏磐梯などを登りましたが、その時は山にはあまり興味がなく、ただただ頂上を目指して登る事を目標としたせいかな景色や周りを見た思い出がありません。

社会人になってからは、富士山や八ヶ岳、茶臼岳、白馬岳などを麓から見たり、登る機会はありましたが、観光の延長のような感じで、どちらかというとキャンプやバーベキューに行ったり、アウトドアウェアやテント、ランタンなどのギア収集に力を入れました。

また10年位前まで冬はスノーボードにハマり、東北は山形、関越方面は新潟や群馬、上越は軽井沢などで滑走やボードパークで遊びましたが、体力に限界を感じ止めてしまい、それ以来マラソンやトレラン、家の近くに小さなログハウスを作ったキッカでDIYなどにハマり今に至ります。

今年に入り、5年後10年後の自分を想像して何かやりたいと考えた時に、山や富士山登山などが思い浮かび、調



べて辿り着いたのが日本山岳会のWEBです。山に対する経験や知識は、皆さんと違ってほぼゼロです。ただ体力にはまだ自信があるほうなので、これから色々経験を積みたいと思います。

興味がある山は、利尻山や鳥海山、大山などに登ってみたいです。行く機会があれば是非お声掛けを🙇

今、山岳会関連は、加入者が減っていると聞きます。

あらたな会員を増やす為に素人や初心者の勧誘も必要だと思います。

そんな初心者でも安心して加入できるような山岳会になるよう尽力していきたい。素人ならではの意見が逆に強みになるよう頑張りますので、皆様宜しくお願いします。楽しく山行に参加できれば嬉しいです。



あ の 日 の 山

— 聖 山 カ イ ラ ス —

津田 麗子



山歩きは昆虫採集から始まりました。まず足元からと、登山靴の踵に石鹼をこすり付けると靴ずれしない...、あれこれ父に言われながら歩いたのが最初です。だんだん捕虫網が邪魔になり、夏は涸沢、スキーシーズンとなれば細野・八方尾根へ通っておりました。河童橋でのキスリング姿は、10代のころ。一緒にいるのは山岳部の仲間です。



中央が津田さん

諸々が一段落し中年で再デビューしてからは、台湾・玉山を皮切りに、以前は夢でしかなかった国外の山にも、時々出かけるようになりました。

お誘いをうけ、チベットやインドの聖地巡礼に出かけたのは、30年も前のことになります。聖山カイラス(6714m)は、チベット仏教やヒンズー教、ボン教、ジャイナ教の聖地で、カンリンポチュエ(尊い雪山)、カンティセ(魂の住む山)とも呼ばれ、登頂禁止の聖山の為、山頂を踏むことはできません。5070mのドルマ峠が到達できる最高地点になります。

「聖地巡礼」という言葉に惹かれ日本を出発したのは六月、梅雨の頃でした。

カトマンズを北上、国境のコダリから橋を越え中国に入国。ランドクルーザーに三人ずつ分乗。往復2000km、平均高度5000mの旅(20日間)が始まったわけです。途中のラルンラ(5000m)では憧れのシシヤパンマやカンペンチン(京大初登頂)の近さに驚き、バルヤンではインドヒマラヤを遠望。

カイラスが優美な姿を現したのは、クンチュール湖を過ぎ、ラカスタルとマナサロワールの間にさしかかった時です。南面の特徴である「魔除けの卍」が、はっきりわかりました。川口慧海が初めて聖山を仰いだのもこの場所だったのでしょう。



チベットの人々にとって巡礼(コルラ)は生涯の夢。一度のコルラで過去の罪は浄化され、十回となると生死輪廻の地獄輪廻が免除。百回なら仏性が備わる...と、信じられています。仏教徒は右回りに巡礼する由、私たちもこれに倣う事にしました。

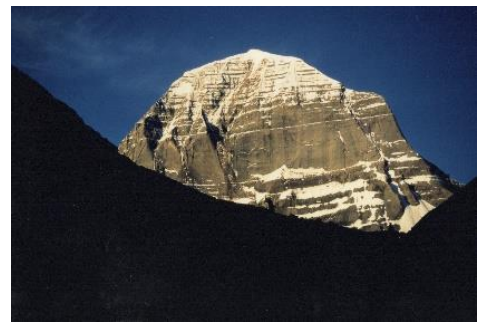
最高地点(5670m)のドルマ峠へ辿り着くと、ラブツェの柱に、数えきれない五色の祈願旗タルチョーが結ばれ、紐も千切れんばかりにはためき、外れた色とりどりの小旗が空に舞っています。既に人影は少なく、ツェンパを撒く人などはおりません。大きな岩の傍らに、薬草らしき苔を手にした老女が一人いただけでした。

ドルマ峠からの下りはかなり険しい急坂ですが、直下の右側にあるグリカンドが殊のほか美しく、急遽カメラを取り出し撮影しました。薄青色の湖面に浮いた氷の塊や背後の尖った峰々も印象深い絶景で、この時の作品は、今も、大切に飾っています。



浄土を見てきたような気分なんて大袈裟なことはいえないけれど、カイラスは人生の句読点になった旅でした。自然に育まれて生きる実感、感謝の気持ち...あの時、心の奥に深く居着いてしまった何かは、今も存在しているようです。

浄土を見てきたような気分なんて大袈裟なことはいえないけれど、カイラスは人生の句読点になった旅でした。自然に育まれて生きる実感、感謝の気持ち...あの時、心の奥に深く居着いてしまった何かは、今も存在しているようです。



※ 支部だより63号の「あの日」の記事に訂正があります。

前田さんが剡岳に入山して廣島さんに会ったのは1964年でなく、正しくは1969年です。

●● 各支部との交流が盛ん—支部懇談会ほか ●●



群馬で全国支部懇談会

小川 和敏

9月23日～24日、群馬支部主催で、久しぶりの全国支部懇談会がみなかみ町で開催された。会場は水上ICから近く座山みなかみ。北は北海道から南は九州までの各支部から多くの参加者が集まった。初日は、群馬県警察谷川岳警備隊長からの「遭難救助」の現実に関する講演を聞き、多くの教訓を改めて学んだ。その後の懇親会は大広間で、まずは、三国太鼓の勇壮な演奏で幕開け。そして、群馬支部支部長の挨拶を皮切りに、新たに日本山岳会の会長に就任した橋本会長からのご挨拶、地元みなかみ町阿部町長のご挨拶と続き、桐生副会長の乾杯音頭で会が始まった。ビールの後は各支部から差入れされた日本酒を次々と味わいながら、あっという間の時間。部屋に戻って、2次会。夜遅くまでワイワイと・・・



《千葉支部参加者》松田宏也、節田重節、三田博、坂上光恵、柳川しげよ、三田芳江、吉田望、小川和敏

翌日は、谷川岳インフォメーションセンターからA～F班に分かれて、一ノ倉沢までの軽いトレッキング。日差しが強くてすぐに汗ばんで・・・本当に9月？状態に。マチガ沢での谷川岳の絶景に皆が歓声をあげ、一ノ倉沢までの道のりを谷川岳と横に見える白毛門の景色を楽しみつつゆっくりと。一ノ倉沢では全員での集合写真を撮ってもらい、元来たルートを戻る。



谷川岳インフォメーションセンターに戻り、群馬支部さんに準備して戴いた鳥めし弁当に皆で舌鼓。多少の渋滞が有りながらも、早めに千葉に戻ることが出来た。今回は受け身での参加だったが、多くの支部が参加する全国支部懇談会を開催することの大変さが印象に残った。会場選定に始まり、各支部への連絡調整は固より、当日の各参加者への諸々のコントロールで本当にご苦労されていると感じた。群馬支部の皆さん、有難うございました。因みに、次回開催支部は神奈川支部です。

栃木で四支部懇談会

三田 博 三田 芳江

関東地区四支部懇談会（千葉・栃木・茨城・群馬）が11月3日～4日、栃木県の高原山の麓で行われた。会場は塩谷町の小学校校舎を改装した「星降る学校くまの木」という施設で、4支部から25人が参加した。千葉支部からは7人が参加。ゲストには「山の編集長」こと萩原浩司会員、来賓に塩谷町の見形和久町長を招いて行われた。

記念講演は、市川貴大さんによる「船村徹先生とふるさと高原山」。故船村徹氏は、周知のように有名な歌謡曲の作曲家だが、2008年に「山の日をつくろう」と地元の新聞に寄稿し、それが祝日「山の日」誕生のきっかけになった。塩谷町出身の船村氏は、高原山を大変愛されていたそうで、市川さんはすぐそばで山の日関連の資料などを作ることをおこなった方。同時に高原山と山麓の里山整備・再生活動を精力的におこなっている。高原山山麓の市町村ネットワークづくりの話など興味深い話だった。

続いて各支部からの活動報告後、市川さんたちが整備している学校裏山を全員で歩いた。散策路としてきれいに草刈りされ標識も付けられていた。

夕刻からは、恒例の懇談会がおこなわれ和やかに杯を重ねた。栃木支部の細やかなもてなしを受け、とても楽しい懇談会だった。来年度は千葉支部が主催ですので、今から準備を進めていきたいと思います。（三田 博）

《千葉支部参加者》松田宏也、節田重節、坂上光恵、三田芳江、三品京子、吉田望、三田博

11月4日（晴れ）；四支部懇山行 高原山（釈迦ヶ岳）
千葉支部参加者：三品京子、三田博、三田芳江（3名）
タイム：大間々台駐車場 9:00→大入道分岐 10:00→
釈迦ヶ岳 11:30→大間々台駐車場 14:30

11月とは思えない暑い日。A隊は高原山登山。B隊は大間々台周辺トレッキングと2班に分かれて大間々台駐車場を出発。A隊は栃木支部の仲島さんを先頭にゲストの萩原浩司さんを含む9名がテンポよく見晴らしコースを進む。栃木支部長が「遠くに見えるけど釈迦ヶ岳は近いんですよ！」と声をかけてくれる。



紅葉は殆ど終わっていたが、時折裾野に錦絵が見えた。比較的なだらかな登山道を順調に山頂直下まで来たが、最後の急登は段差のある岩場をロープで攀じ登るハードなコースだった。見晴らしの良い山頂には真新しい鳥居と大己貴命（おおあなむちのみこと）の像が建っていた。笑顔で集合写真を撮影。昼食時に前に居た千葉から来たと言う若いカップルに千葉支部のPRを。帰路は落ち葉の積もる林間コースを通り、予定時刻に駐車場に戻った。気配り溢れる温かなおもてなしを頂いた栃木支部の皆さん、本当にありがとうございました。（三田 芳江）

福島支部と霊山へ

松田 宏也

11月4日～5日(晴れ) 1名



栃木での4支部懇談会のあと皆さんと別れ、ひとり福島支部の霊山青柳山荘に向かった。日本百景にも指定されている霊山(りょうぜん 825m)

の麓にある山荘で福島支部のつどいの場所になっている。落葉樹に囲まれた静かな山荘だ。今日は福島支部の役員会後の懇親会であるが、そこにお招きを受け参上した次第。

豪快なぶつ切りのマグロ、肉を肴に地酒のなんとうまいこと。

どこの支部でも高齢化が目立つが、懇親会には若手ふたりも参加しており、これもなにかの縁と来月行われる房総Baseでのユースクラブ忘年会に参加してもらうことになった。

翌日は霊山に登る。霊山祭りが行われており朝から賑やかだ。霊山の頂上までは1時間程度、多くの市民の方々が次から次へ登り始めていた。

登ってみて、なるほどステキな山で、市民に愛されるのもっともだと思った。



九州・九重の山旅

三田 博

10月29日(日)～11月2日(木) すべて晴れ 2名

松田支部長と私(三田)で大分・九重の山々を一緒に歩いてきました。今回の山行では、東九州支部の安東支部長をはじめ東九州支部の会員の方々に大変お世話になりました。同時に、日本山岳会という全国組織に所属している良さ、ありがたみをあらためて感じました。

10月29日、東九州支部の安東支部長がわざわざ大分駅に迎えに来てくださり、車で九重のやまなみハイウェイなどドライブ。夜は東九州支部の女性陣3人も加わり、「カナディアビレッジ」という洒落たログハウスの宿で歓迎会をしていただく。

10月30日、この日の予定は、東九州支部の方々と大船山登山。林道ゲートを特別に開けてもらい、坊ガツル近くの林道終点まで車で行く。「坊がつる賛歌」で知られる坊ガツルは広大なススキ原で、ガイドブックではテント1500張り可能とのこと。ラムサール条約登録の湿地でもある。目の前に見事な紅葉の平治岳(ひいじだけ)と大船山が聳え立つ。ゆっくりと高度差450mを登り分岐の段原(だんばる)へ。ここでNHKラジオ「山カフェ」の石丸謙二郎さん一行に会う。大休止した後、目の前の大船山山



頂へ岩場を登る。山頂直下の御池(おいけ)には湖面に終わりかけた紅葉が映っていた。その日は法華院温泉に宿泊。雄大な大船山を眺めながら湯に浸かった。夕食時には石丸さんたちと和やかにお酒を酌み交わした。

※個人山行



10月31日、法華院温泉の裏側の急な山道を登り、北千里ヶ浜へ。広い荒野地形で、昔、吹雪の中で道迷いして学生の遭難があったということでケルンがあちこちに。硫黄山、星生山を右手に見ながら登ったところが「久住分かれ」。このあたりから岩だらけの登山道になった。荒涼とした眺めは北アルプスの岩場のよう。久住山頂上で昼食にした後、御池(みいけ)を見下ろす稜線に建つ立派な遭難碑を訪ねる。この慰霊碑は、昭和5年に久住山で初めての遭難事故があった時に建てられたもので、一度倒れてしまっていたがその再建に尽力したのが東九州支部だそうです。安全登山の誓いとして碑前で毎年慰霊祭が行われているとの事です。一休みした後は、天狗ヶ城、そして九州本土最高峰の中岳を回り元来た道を法華院温泉に戻り連泊した。



11月1日、今日は長者原(ちょうじゃばる)まで下山するだけなので、ゆっくり出発。紅葉真っ盛りの森を4時間かけて歩く。ゴールの長者原は金色のススキの原が広がっていた。平日だがベストシーズンなので駐車場も一杯だった。東九州支部の笠井さん・下川さんは3泊4日の九重の山々を一緒に歩いて案内していただき、とても楽しかった。九重の山も温泉も、人も素晴らしくて本当に思い出に残る山旅になりました。

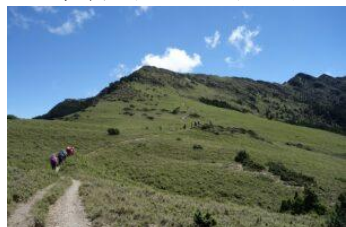
台湾・南湖大山

三田 博

※本部山行

山行日(天候) : 9月12日~17日(曇り)

JAC本部山行委員会が企画した台湾・南湖大山の山行に参加してきました。新ハイキングクラブとの合同で10人パーティーです。そのほか現地では、通訳兼ガイド、ポーター、料理人など5人が付いてのゆとり山行でした。

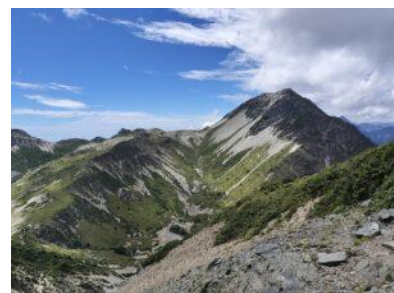


南湖大山は、千葉支部でも2020年に計画がありましたが、コロナで直前に中止になったいきさつがあり、そのためいつか行きたいと思っていた山でした。台湾は3,000m超の山が269座ある、日本にとっても近い山岳王国です。その中でも5番目に高い南湖大山(3,742m)は、玉山、雪山とともに有名な山です。



初日は成田を出発し台北で宿泊。2日目は勝光登山口(1,830m)から樹林帯を登って雲稜山荘(2,590m)まで。3日目は審馬陣山(3,141m)、南湖北山(3,536m)、南湖大山北峰(3,592m)を登り、南

湖大山直下のカールに建つ南湖山荘(3,390m)に泊まります。



4日目はいよいよ山頂アタック。4時に歩き出して山頂で御来光を眺める予定でしたが、日の出は雲の中でした。それでも明るくなり始めた山頂からは、周囲が高い山ばかりの360度の素晴らしい眺めが得られました。特に朝焼けに染まった中央尖山が素晴らしく、次はぜひあの山に登ってみたいと思いました。



これからも各支部との交流に力を入れていきます。

懇談会への積極的参加は固より、支部山行などで他支部の近くの山に行く時には声掛けをするなど、「交流」を旨に活動することが肝心かと。

ちょっと怖かった二ツ箭山

三品 京子

山行日(天候) : 10月27日、28日(晴れ)

参加者 : L 三田博、三田芳江、三品京子(3名)

タイム : 27日(金) 二ツ箭山駐車場 9:00→二ツ箭山

登山口(沢コース) 9:20→男体山 10:40→

女体山 11:10→山頂 11:50→駐車場 13:20

28日(土) 背戸峨廊入口 8:20→トッカケの滝

8:40→背戸峨廊入口 9:20

登山口に向かう車内から見える山々は木々に覆われているが岩が露出した山頂が1カ所見える、それが今日登る二ツ箭山と教えてもらう。駐車場に到着、岩場での行動を考え荷物は最小限にして登山口へと歩き出す。尾根道との分岐を沢コースに進むと早速鎖場が現れ、岩場をのぼり急登の林の中を黙々と登ること50分、巻道と岩場コースの分岐は岩場コース進む。リーダーの登るポイントを辿ってクリアすると目の前に岩壁、男体山の取りつきに着いた。ホールドとスタンスそして鎖もあるので垂直の壁だが何とか行けるかなと慎重に登り始める。途中リーダーが下を見てごらん怖いよと・・・覗くとゾワゾワ、怖いですと、そんな



やり取りをしながら岩のてっぺんに到達した。山頂は広さ一畳ほど、余計な動きをしたら滑落となるので早々に写真を撮って向かいに見える女体山へと移動と思っても、まずは同じコースを下りないとならず又もやゾワゾワしながら慎重に下りる。次の難関、女体山の岩壁もクリアし山頂では昼食を取り景色を眺める余裕もできた。二ツ箭山の山頂は林の中にあり景色も無く三角点にタッチして下山を開始、途中木々の合間から見える男体山と女体山の姿は切り立っており、よく登れたなど自分ながらに感慨深い気持ちになった。



駐車場に戻り今夜の反省会の材料を調達しテント場へと向かった。キャンプ場は駐車場の隣にあり、これが「ゆるキャン」テントを担いでいかない楽ちんキャンプ。準備を始めると空模様が怪しく急ぎテントを張り終えた途端雨では無く雹が叩きつけるように降り始めた。食事は地元の魚と肉のバーベキューを肴に盛り上がった。翌日は背戸峨廊からトッカケの滝まで沢沿いを散策し帰路に着いた。

信越トレイル 羽藤美代子 中田 彩 三田 博



山行日：10月20日～23日
 参加者：CL 松田宏也、SL 三田博、吉田望、羽藤美代子、
 小野純江、小泉静子、丸山さかえ、(7～9名)
 坂上光江(20日～22日)、中田彩(21日～22日)

山行日/天候：22日(曇時々晴)
 タイム：伏野峠8:30→須川峠9:30→菱ヶ岳分岐10:00
 鞍部11:00→西マド湿原11:55→野々海
 12:30-12:50(昼食)→深坂峠14:00

出発点の伏野峠は曇り空。寒いが、尾根に上るまでの急登で体が温まる。その後は小さなアップダウンを繰り返す。徐々に青空が広がり、陽がさす。ぶなの黄葉が眩しい。お日様はすごい。須川峠で休憩。いただいた羊羹が美味。

すぐに菱ヶ岳分岐。地図を確認し、右に向かう。時々、小さな崖があり、ロープに捕まり登る。昨晚の雨で滑りやすい急な下りは、慎重に進む。稜線沿いのブナは雪の重みで捻じ曲がり、一部は折れ、道を塞ぐ。またぎ、くぐる。左に日本海、右にブナ林。上も下も左も右も見て、たまには振り向き景色を眺め、となかなか忙しい。さらに進むと、西マド湿原。池塘、湿原の枯れ草、紅葉。綺麗。



そして、野々海峠。待望の昼食！最後はなだらかな道。長野県最北地点からは冠雪した越後の山々が。どうりで寒いわけだ。

終点の深坂峠は美しい場所。上越から魚沼まで一望し、山行を締めくくる。賑やかに美しい景色を堪能し、先輩方から山でのいろはを学んだ、実り多き山行でした。参加させていただいたことに感謝です！（中田 彩）

山行日/天候：23日(晴れ)
 タイム：深坂峠8:00→三方岳8:40→天水山10:30→
 松之山口11:20

前日下山した、大きな石碑がある深坂峠からスタート。新潟県側は切れ落ちた登山道を歩いていく。日ごとに紅葉が深まるようで、昨日よりさらに紅葉が鮮やか。アップダウンはあるがほぼ稜線歩きで道は明瞭だった。三方岳を越えて着いた天水山は見晴らしは無いが、見事なブナの大木があった。天水山から30分ほどで松之山口への分岐。ここから北へ標高差100mほど下っていくが、いちめん黄葉したブナの林で、今回歩いたコースの中で一番素晴らしかった。このブナの森をどこまでも歩いていたいと思いつつも、林道に出ると、有り難いことに宿の車が迎えに来ていた。（三田 博）



山行日/天候：20日(曇り)・21日(曇りのち雨)
 タイム：20日 赤池10:47→袴湿原分岐11:28→
 袴岳12:39→赤池14:12、
 21日 関田峠8:55→筒方峠9:30→黒倉山
 10:29→鍋倉山11:19→茶屋池はうす13:32



信越トレイルは長野と新潟の県境に連なり、関田山脈エリアと苗場山脈エリアに大きく二つに分けられ、全長110kmとガイドブックにある。

20日は新幹線を降りた飯山駅から宿の車で、赤池まで。そこから袴岳へ。登山道の階段は苔むして歩きやすく、積もった枯葉はふかふか、ブナやカエデ、ナナカマドの鮮やかな紅葉に見とれていたなら、足元には蔓リンドウが真っ赤な実を付けて咲いていた。



袴岳と袴湿原分岐からの登りからダケカンバの巨木もあり、そして黄葉のブナの木々が森を明るくしている。袴岳の山頂に着くと、西の方面が開けていて妙高山が大きく見える。雨が降りそうなので直ぐに赤池まで下山する。

21日、登山口からしばらく落ち葉を踏みしめながら歩くとブナの若い幹は雪の重みの為くねくねと曲がっているのが多い。1時間30分程で黒倉山。山頂は雲が厚く何も見えず、山全体が黄金色に輝くと言う鍋倉山へと。ブナ林の中にユキツバキの低木も多く雪解けとともに真っ赤な花を咲かせるようだ。今年熊の餌となるブナの実が凶作で、熊は人里に降りてくるらしい。春になったら根曲がり竹や、コシアブラの天ぷらが食べたいなどと、大声で喋っていたので、熊に出会わなくてすんだ。曇っていたので鍋倉山からの眺望もなく、小休止して下山。茶屋池の畔のブナ林を過ぎると小屋の前に迎えの車が丁度来た。お世話になった宿の車で、毎日登山口、下山口に送迎してもらい、参加者のメンバーの体力や天候に合わせて自由に歩けるのがロングトレイルの良さであったが、それが感じられ楽しんで歩けたトレッキングでした。（羽藤 美代子）



21日、登山口からしばらく落ち葉を踏みしめながら歩くとブナの若い幹は雪の重みの為くねくねと曲がっているのが多い。1時間30分程で黒倉山。山頂は雲が厚く何も見えず、山全体が黄金色に輝くと言う鍋倉山へと。ブナ林の中にユキツバキの低木も多く雪解けとともに真っ赤な花を咲かせるようだ。今年熊の餌となるブナの実が凶作で、熊は人里に降りてくるらしい。春になったら根曲がり竹や、コシアブラの天ぷらが食べたいなどと、大声で喋っていたので、熊に出会わなくてすんだ。曇っていたので鍋倉山からの眺望もなく、小休止して下山。茶屋池の畔のブナ林を過ぎると小屋の前に迎えの車が丁度来た。お世話になった宿の車で、毎日登山口、下山口に送迎してもらい、参加者のメンバーの体力や天候に合わせて自由に歩けるのがロングトレイルの良さであったが、それが感じられ楽しんで歩けたトレッキングでした。（羽藤 美代子）



21日、登山口からしばらく落ち葉を踏みしめながら歩くとブナの若い幹は雪の重みの為くねくねと曲がっているのが多い。1時間30分程で黒倉山。山頂は雲が厚く何も見えず、山全体が黄金色に輝くと言う鍋倉山へと。ブナ林の中にユキツバキの低木も多く雪解けとともに真っ赤な花を咲かせるようだ。今年熊の餌となるブナの実が凶作で、熊は人里に降りてくるらしい。春になったら根曲がり竹や、コシアブラの天ぷらが食べたいなどと、大声で喋っていたので、熊に出会わなくてすんだ。曇っていたので鍋倉山からの眺望もなく、小休止して下山。茶屋池の畔のブナ林を過ぎると小屋の前に迎えの車が丁度来た。お世話になった宿の車で、毎日登山口、下山口に送迎してもらい、参加者のメンバーの体力や天候に合わせて自由に歩けるのがロングトレイルの良さであったが、それが感じられ楽しんで歩けたトレッキングでした。（羽藤 美代子）

秋の高原山は寒かった

齊藤 和紀

山行日/天候 ; 11月10日(曇、雨)、11日(晴)
 参加者 : L 小川和敏、平出正美、齊藤和紀 (3名)
 タイム: 八ヶヶ原大間々登山口 9:30 ~ 八海山神社 10:30
 ~ 矢板市最高点 11:00 ~ 剣ヶ峰中間点付近
 折り返し 11:30

私にとっては初めての秋口登山となった。

登山前日は日光市内の滝巡り。天気は曇り、時々小雨であつたが日中は歩いていると多少汗ばむ気候。さすがに夕方は上着を羽織るが11月とは思えないほど暖かい。天気予報を確認すると明日は快晴の予報。ただし冬型の気圧配置との事。高原山登山への期待を胸に就寝。

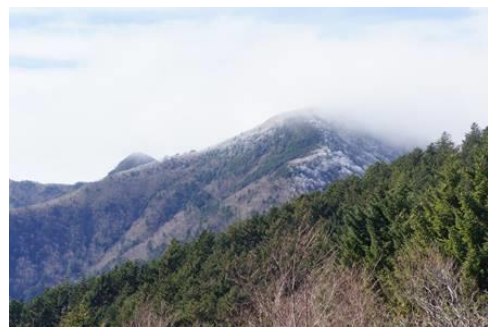
登山当日朝は快晴、宿出発時は微風、高原山登山への期待を膨らませつつ登山口へ向かう。登山口に到着するや今までに経験したことのない強風。しかも外気温4度、体感温度はまさかのマイナス。手袋をしても指が冷たい。リーダーが開ロ一番、”中止するか?!”登山を期待していた私としては、一気に意気消沈。その後のリーダーの「八海山神社まで行ってみるか」の一言に内心「やったァー」との思いがこみ上げる。八海山神社までは林間コースを選択。林間の為、風が時々弱まり登山続行の期待を抱かせる。足元を見ると霜柱、昨夜降ったと思われる霰(?)が本格的な冬の到来を告げている。霜柱、霰(?)を観測しながら、写真に収め前人未到?の山道を進むと八海山神社に到着。登山続行の期待を裏切るかなりの強風。見えた景色は崩れ落ちた神社の屋代。風



で崩れたわけではないと思うが、天気は快晴。遠景を見ると剣ヶ峰の樹木が着氷している。リーダーより「剣が峰まで行ってみるか」とのうれしい発言に心ははしゃぐ。矢板最高点ま

では順調だが本格的な冬装備をしていない為、寒さが身にしみる。最高点を過ぎてしばらく行った所で断念し引き返すことにした。

帰り道、風除けできる場所にてリーダー持参のコーヒーで昼食。山行でのコーヒーを味わいつつ寒さを改めて実感する。八海山神社からの帰りのルートは他方の見晴ルートを選択。見晴ルートだけあって強風が半端ない。最初にこのルートを選択していたら八海山神社手前で引き返していたと思われる。どちらにしても、途中で引き返した判断は正解であった。



快適だった檜洞丸

中田 彩

山行日/天候 : 11月12日(曇)
 参加者 : L 今井貴朗、末吉千穂美、羽藤美代子、中田彩 (4名)
 タイム : 西丹沢ビジターセンター 8:50 → ツツジ新道入口 9:00 → ゴーラ沢出会 9:50 → 展望園地 10:50 → 11:45 ベンチ(休息) 12:05 → 石棚山陵分岐 12:25 → 12:40 檜洞丸山頂(昼食) 13:10 → 石棚山陵分岐 13:40 → 展望園地 14:20 → ゴーラ沢出会 15:10 → ツツジ新道入口 15:50 → 西丹沢ビジターセンター 16:00



絡まったヤセ尾根、岩が露出した急坂。ひたすら進む。

天気予報通りの曇り空。寒すぎず、山登りには快適な気候。ツツジ新道から入る。急登を詰め、山腹のなだらかな道を歩く。よく整備されている。ゴーラ沢出会で川を渡り、尾根に取り付く。木の根が

展望園地は、陽が射し気持ちよい。青が岳山荘の歩荷さん。灯油とおでんを荷揚げしたそう。あたたかい山荘で美味しいものを食べられるのは彼らのおかげ。

再び急登。今度も長い。あと少しと自分を励ましながら急階段を進む。首都圏の山なのに、人がいない。しんとしている。集中し一心に登る。やっと分岐。枝ぶりが美しいブナを眺めながら木道と階段を進み、程なく山頂。風が強く寒い。しっかり着込み、待望の昼食! 下りは、周りを眺める余裕あり。色づいた紅葉が美しい。秋は確実に深まっている。霰に会い、最後は薄暗い森を下ったが、無事下山。温かいお茶やアイスクリームで山行を無事終了ことを祝う。大きな心で私たちを導いてくださった今井さんに感謝です。



● 年次晩餐会が盛大に開催 ●

令和5年度の日本山岳会年次晩餐会が12月2日、新宿・京王プラザホテルで開催された。参加者は全国から約340名、千葉支部からは14名が参加した。

開会の挨拶をした橋本しをり会長からは「全国での支部活動が会を支えている」と話し「みんなの日本山岳会」という標語を掲げて、開かれた会にしていきたいことなど抱負が語られた。続いて今年度亡くなられた74名の会員に黙祷が捧げられた。次に今年の新永年会員18名を代表して今井通子さんが挨拶した。次に今年度の新入会員で晩餐会に参加した20名が壇上へ。千葉支部からは成田さん、福里さんが壇上に上がった。秩父宮記念山岳賞には信州大学名誉教授の原山智さんが受賞し表彰式が行われた。

晩餐会に移り、壇上で鏡開きをした後、古野前会長の乾杯の音頭でスタート。テーブルごとに和やかに談笑、料理とお酒を楽しんだ。また他テーブルの方たちとも交歓し、楽しいひと時を過ごした。この日講演をした平出和也さん、中島健郎さんも千葉支部のテーブルに来てくれて一緒に記念撮影に応じてくれた。今年参加されなかった方も来年はぜひたくさん出席してください。

《晩餐会参加者》神山良雄、齊藤幹雄、坂上光恵、節田重節、津田麗子、甘楽敦夫、成田知彦、福里清信、松田宏也、三田博、安間繁樹、柳川しげよ、吉田望、吉田稔



【晩餐会記念講演会】

今年の記念講演会は3組。第1部は、ヒンドゥークシュ山脈の最高峰ティリチミール（7708m）の未踏の北壁に挑んだ平出和也さん、中島健郎さん二人の報告。標高差2000mの氷壁と岩のミックスの未踏峰ルート。スライドを多用して登頂成功までの厳しいチャレンジを、時折りユーモラスに語った。来期にはK2西壁への挑戦も表明した。

第2部は、120周年事業「グレートヒマラヤトラバース」の3、4回目、エベレスト山群からアンナプルナ山群までのレポート。重廣恒夫リーダーと吉井修さん、飯田邦幸さんの3人が、11月末に帰って来たばかりの踏査報告をおこなった。

第3部は、今年度の秩父宮記念山岳賞を受賞した原山智（はらやまさとる）信州大学名誉教授の「北アルプスの形成」と題して、マグマとプレート運動により飛騨山脈がどのようにできたかという研究。花崗岩の年代測定によって、隆起と傾き（回転）で今の北アルプスが出来上がったことを分かりやすく話した。



【全国支部連絡会議】

12月2日、晩餐会に先立って全国支部連絡会議が行われた。橋本会長の挨拶では以下の4点が示された。1、会員の高齢化・減少の克服 2、登山者の多様化への変化 3、山岳環境の保全の推進 4、日本山岳会の役割の再定義。その上で「みんなの日本山岳会」をキャッチフレーズに、ヒマラヤから高尾山まで、老若男女、高齢者から若者そしてLGBT、経験がない人にも山の魅力を知ってもらうことが大切な役目。「大風呂敷ですが願わくば10年後の会員倍増」と締めくくった。

本部からは、現在の山岳会の財務状況が非常に厳しいことが今回も説明された。改善のために、入会者増を図り退会者を減らす。「入会推薦者2名は不要」「入会金2万円が高い」など各支部からも様々な意見が出された。経費削減案として会報の電子配信、回数削減なども出たが纏まっていない。支部に持ち帰り意見を集約することになった。120周年記念行事では、5月18日～19日に行われる「熊野古道集中山行」の詳細が発表された。

《出席者》松田支部長、三田事務局長

【晩餐会記念山行「奥武蔵・天覧山と多峯主山」 12月3日 晴れ

4班に分かれ埼玉支部会員の先導で飯能駅を10時過ぎに出発、市街地を通り能仁時から天覧山登山口へ。風も無く絶好の登山日和。杉林のゆるやかな道を登ると天覧山（197m）山頂。明治天皇が登られてこの名前が付いたという。標高は低いが飯能の市街地がよく見渡せる。休憩した後は北西の登山道をたどり多峯主山（271m）へ。こちらも眺望は良く、山頂からは新宿高層ビル群も見えた。山頂で昼飯を食べた後は南へ下り、名栗川沿いの河原を歩く。吾妻峡という溪谷で、河原でバーベキューを楽しんでいる人たちもいた。大沢橋の手前から車道へ出て駅へ向かう。市街地に近くても自然が残るいいハイキングコースだと思った。

《山行参加者》松田宏也、上村紀子、安間繁樹、三田博、東蒼生、成田知彦、小林ユキ子



登山道整備を兼ねて鎌倉古道を検分 小川 和敏

山行日/天候：11月23日（晴れ）

参加者：L松田宏也、三田博、山本哲夫、甘楽敦夫、
竹内進、今井貴朗、坂上光恵、三品京子、三田芳江、
小川和敏（10名）



昨年から今年にかけて整備した鎌倉古道と房州アルプスを歩きました。整備後、何回かの大雨も有ったことから必ずや整備が必要な

箇所があるだろうとの思いで、スコップ、カマ、ノコギリ、そしてクマデを各々携えて梨沢区公民館に集合。まずは、戻りのことを考えて房州アルプス登山口にクルマを1台



一部はノコギリで切断したりしつつ処理する。落ち葉はクマデで掃きまくる。昨夜の雨で登山道が滑るので、地盤が斜め部分のところどころに現れる細いルート部分は、スコップでステップを作りつつ慎重に進む。思ったよ



りも寒くなく、気温は作業に丁度良いくらい。鎌倉古道終点の林道に出て、房州アルプス入口まで歩く。しかし、この時期なのに、休憩した大塚山ほかの落ち葉下には山ビルがたくさんいた。

入口手前の陽だまりでお昼を食べ、民家の横から房州アルプスへと。もともと房州アルプスのルートの方が鎌倉古道よりは荒れ方が酷くなかったかと。今回もあまり手を入れる必要が無かった感じた。もっとも、房州アルプスの後半ルートは別動の千葉県山岳・スポーツクライミング協会（CMSCA）の方たちが整備済みだったようですが。無実山を経て、クルマを止めおいた場所に到着。運転す

るメンバーがクルマで梨沢区公民館に戻り、各々のクルマで各同乗メンバーをピックアップし帰路に着いた。心地良い疲労感に包まれる。



ウォーキングクラブ報告

宇津木 仁典

● 「御宿地区」及び「大原地区」15km ウォーク

N016 9月23日(土) 曇り時々小雨

参加者 塩塚生二、斉藤和紀、平出正美、新井好夫、吉野聡、長谷川博、岩尾富士夫、
竹園清孝 能美勝博、梶田義弘、梶田天兵、L宇津木仁典



今年の猛暑月(7月及び8月)は、極めて暑かった。この猛暑月を避けて今日(9月23日)は、久しく仲間が御宿駅前に集い9:30 スタートした。御宿駅前からウォーキングコースの立ち寄り地は⇒御宿海岸潮騒の道を渚の風に誘われて御宿漁港⇒月の砂漠記念碑⇒岩田漁港⇒メキシコ大統領来訪記念碑と彫刻⇒御宿駅ゴール⇒JR 御宿駅⇒大原 JR 大原駅⇒木戸いすみ酒造蔵⇒大原裸まつり汐ふみ会場(大原海岸)⇒大原漁港⇒八幡小浜神社⇒大聖寺⇒JR 大原駅前に 15:00 ゴールした。歩数計は、23,629 歩、消費カロリー755kcal を示していた。

ウォーキングコースの御宿地区では特産物の伊勢海老祭り、また大原地区では勇壮豪快な「裸祭り汐ふみ」が催され、賑わいの海沿い道を歩いた。まずは御宿地区では、「つきの砂漠をはるばると旅のらくだが ゆきました……」月「月の砂漠記念像」に立ち寄った。

海岸沿いの道には、伊勢海老の即売店、屋外テーブルではイセエビ試食者を散見した。また海には沢山な老若男女がサーフィンを楽しんでいた。

メキシコ記念公園に立ち寄った際は、メキシコ船が遭難時に海女さんが救助遭難男を抱きしめて暖め姿の男女が抱き合う彫刻を観て、仲間は何を想像してか？話が続いていた。御宿町内を約5,7キロメートルウォーキングして御宿駅前に到着した。

この JR 御宿駅から JR 電車で、次のウォーキングコース大原地区スタート地(大原駅)前に向かい、大原海岸周辺コースのウォーキングでは、「大原裸祭り汐ふみ」会場の海岸に向かう十八社神輿と掛け声高らかに勇む大勢な若衆と遭遇した。

周辺道路及び海岸には、神輿及び多くの担ぎ手、氏子、観衆等で埋まり、盛大な「汐ふみ」祭り絵巻がくりひろがっていた。

この汐ふみ勇壮豪快な催事を暫く観て、雑踏のなかをかき分けながらウォーキングは、解散地の大原駅前に進んだ。この実施計画策定時にウォーキング距離は、「ややロングコースかな？ どうか？」思慮したが、このロングコースに山仲間の皆は、「協力」「共助」



して無事に解散地に到着した。

● 昔も今も変わらない下町随一の観光名所地 7.5km ウォーク

N017 10月28日(土) 晴れ

参加者: 塩塚生二、黒住清美、國宗文、竹園清孝、斉藤和紀、梶田義弘、梶田天兵、小林ユキ子、L 宇津木仁典

ウォーキングコース選定には、先行地は浅草駅周辺の人々が多く集まる雑踏を避けて、墨田川を挟み川沿い南北に広がる閑静な墨田公園内を選定して浅草駅前を 10:10 スタートした。

青空を背景に世界一のタワースカイツリーが浮び展望は見事。そして緑地歩道を周辺の風景を観ながら有酸運動のウォーキングは速足で進んだ。公園内は水戸徳川家屋敷跡にちなむ史跡、牛島神社そしてスカイツリーの見え方も迫力が増してきた近くの「かつ専門店」で昼食にした。

昼食後のウォーキングコースは、観光地の浅草地区である。人々が集まった雑踏コースに一変して、なかでも外国人の姿が多く目立ち雷門からは人々をかき分けて前に進み、仲見世通り⇒浅草寺⇒浅草神社⇒スターの広場⇒江戸下町伝統工芸店⇒浅草六区通り入り口⇒かっぱ橋本通り⇒太鼓館前⇒浅草駅前(解散地)に 15:30 到着した。

参加者から「浅草寺の周りなんでもありのテーマパークみたいで楽しい。また訪れたいなあ……」つぶやきを耳にした。

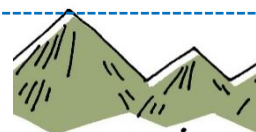
このウォーキング中に仲間全員集合の写真撮影を依頼に日本人を探すのは容易ではなかった。浅草寺前では、外国人が多くて日本人を見つけるには若干の時間を要した……観光名所地の浅草であった。



行きたい山の声を募集します！

ここ数年、支部山行の参加者が固定されている傾向があります。出来るだけ幅広い参加者をとの思いから、難度 A の山行を計画するとか、平日の山行を計画するとかいろいろ試行錯誤していますが、なかなかフレッシュな参加者が増えません。「こういった山行をしてほしい」「この山にいつてみたい」とか・・・何でも良いので、千葉支部の事務局までメール連絡を頂ければと思います。可能な範囲でご希望に沿う計画を立案します。

送信先 ; cib@jac.or.jp



支部山行の予定

- 山行の心得 - リーダーは、ガイドや添乗員ではありません。
「連れて行ってもらう」ではなく、自主的な意識を持ち参加してください。

リーダーが参加者にそれぞれ役割を振り分けますので、積極的に引き受けてください。参加する前に、山城、コース、交通機関などは地図やガイドブック、ネットなどで十分下調べして下さい。地図・コンパス・筆記用具は、どんな山行でも必ず持って来て下さい。また、山行に見合った登山保険には必ず入って来て下さい。遭難救助付きの保険加入は任意ではなく、すべての登山者の義務です。体調不良者が出れば事故と同じで、山行は中止になり引き返すこととなります。日頃の自主トレーニングも是非行なうようにして下さい。

- 山行の申込み
申し込みは、原則として電子メールで行ってください。その際には下記事項の記入をお願いします。
また山岳保険には必ず加入して来て下さい。

①氏名②生年月日・年齢③住所、自宅電話番号、携帯電話番号④緊急連絡先氏名(続柄)、緊急連絡先電話番号

※年齢は山行日の年齢です。計画書と違うと保険が効かない可能性もあります。

山行は定員を設けています。また、技術・体力不足、初参加で力量不明の場合はお断りすることもあります。

各山行形態に見合った山岳保険に加入していない場合は、当該山行には参加できません。

リーダーの連絡先	
宇津木仁典	紙面を参照
松田宏也	
三木雄三	
三田博	
三田芳江	
藤木玄三六	
小川和敏	
三品京子	
今井貴朗	
宮崎美智代	

《 難度 》

- W ウォーキング
- A 整備され歩行 2～3 時間
- B 歩行 5 時間前後
- C 歩行 7 時間前後、一部岩あり体力要
- D 強い体力、岩技術要
- E 高い適応能力要、危険度大

(難度は JAC 日本 300 名山を参考。岩・沢及び積雪期は難度アップとする。)



個人山行も計画書提出を 送信先 ; cib@jac.or.jp

山 行 の 予 定 (1月~6月)

日程	山 名	難 度	備 考	リ-ダー	締切
1月1日(月)	三郡山と安房高山	B	清和県民の森駐車場から周回	三田	12月20日(水)
1月6日(土)~7日	登山道整備と新年会	A	整備後は房総 Base 泊で新年会	松田	12月31日(日)
1月7日(日)	津辺野山(ガイドンス)	B	道の駅「富楽里とみやま」から周回	三田	12月30日(土)
1月14日(日)	麻綿原高原~石尊山	B	千葉の原生林を歩く	今井	1月7日(日)
1月18日(木)	ゲレンデスキー (日帰り)		スキーバス利用(場所未定)	三田	1月9日(火)
1月28日(日)	川崎大師参拝	W	川崎大師駅周辺を歩く	宇津木	1月21日(日)
1月28日(日)	県民ハイク(CMSCA)		詳細は別途		
2月3日(土)	大楠山	A	三浦半島最高峰	松田	1月27日(土)
2月10日(土)	大岳山	B	鋸尾根(or海沢探勝路)から登り、 白倉へ下る	小川	2月1日(木)
2月17日(土)~18日	TOZAN Fes 2024		5ページに関連記事 (JMCSA 主催)		
2月18日(日)	都内江東区ウォーク	W	清澄庭園と門前仲町周辺を歩く	宇津木	2月11日(日)
2月23日(金)	鎌倉アルプス 大仏ルート		(公益事業)晴香園ハイキング	三木・ 香高	2月13日(火)
2月23日(金)~24日	裏磐梯スノーシュー	C	雄国山周辺を歩きます。民宿泊	三田	締め切り
3月2日(土)~3日	頼朝桜を見る会	A	佐久間ダム周辺をハイキング (房総 Base 泊)	松田	2月24日(土)
3月9日(土)	二子山	B	芦ヶ久保駅から雌岳と雄岳へ	小川	3月1日(金)
3月10日(日)	柏木山	A	飯能の里山からの展望を楽しむ	今井	3月6日(水)
3月15日(金)~16日	浜石岳	A	沼津に泊まり、翌日由比駅から富士を見ながら周回	小川	2月10日(土)
3月20日(水)	西丹沢・椿丸	C	読図練習、丹沢の空白地帯を歩く	三田	3月10日(日)
3月20日(水)	柏市内ウォーク	W	大堀川の自然を感じ素朴な街並み を歩く	宇津木	3月13日(水)
3月23日(土)	古賀志山	B	日本百低山・栃木百名山の山を楽しむ	三品	3月2日(土)

日本山岳会千葉支部

日程	山名	難度	備考	リーダー	締切
3月30日(土)	筑波山	A	カタクリの花を見ながら頂へ	宮崎	3月23日(土)
4月6日(土)	富山(ガイダンス山行)	B	西尾根コースを登る	三田	3月24日(日)
4月7日(日)	船橋アンデルセン周辺	W	アンデルセン公園と周辺を歩く	宇津木	3月31日(日)
4月14日(日)	扇山・百蔵山	B	春の景色を楽しむ	今井	3月24日(日)
4月14日(日)	武甲山	B	駅から登山口までタクシー利用	宮崎	4月1日(月)
4月20日(土)	百蔵山	A	猿橋駅から富士の眺めを求めて	小川	4月10日(水)
4月27日(土)	両神山(八丁尾根)	D	鎖場の連続、前夜発	三田	4月17日(水)
5月11日(土)	支部定期総会		千葉市生涯学習センター(9時～)		
5月12日(日)	印旛沼周辺を歩く	W	甚兵衛渡しから印旛沼	宇津木	5月5日(日)
5月19日(日)	鳥ノ胸山	B	富士の姿を望む	今井	5月6日(月)
5月24日(金)	高原山	B	シロヤシオの中を釈迦ヶ岳へ	小川	4月30日(火)
5月31日(金)	足尾・ヒライデ沢	C	初級の沢登り	三田	5月25日(土)
6月15日(土)	大平山	B	相模湾の青色を楽しむ草原の山	今井	5月31日(金)

※ W; ウォーキングクラブの予定が変更になった場合はメンバーに事前連絡します。
メンバー登録はリーダー宇津木さんにメールしてください。

【山行予告】

新たに、支部クライミング教室(講師・平野直子)を開催します。

※詳細は後日支部メールにて連絡

- ・2月:机上講習(クライミングとは・装備について)
 - ・3月:超初心者実技・ハイキングで使うロープワーク
 - ・4月~6月:月1回外岩講習
- ※その他「山菜採り講習」も企画します。



お知らせ

《事務局から》

●支部年会費の納入お願い



滞納している会員・会友の方が散見されます。支部の運営にとって大切な原資です。是非、納入下さい。
未納者には、支部だよりの配布、並びにメール他での連絡を停止します。

以下がゆうちょ銀行の送金口座です。

紙面を参照



●役員会報告

○9月報告 9月20日(水)リモート(松田、三田、小川、上村、三品、今井、甘楽)

◇山行・行事報告 7/29 スッカン沢、8/11 ビールパーティー、8/22 晴香園・奥多摩、8/5~6 九州5支部集会、8/19~21 高峰高原、8/26Base 草刈り、9/8~9 焼岳、9/16 大岳山、9/12~17 南湖大山、大キレット、ペテガリ岳、北鎌尾根、燕岳、光岳

◇山行・行事予定 全国支部懇、ウォーキング、金峰山、4支部懇、復興PJハイク、

◇報告・検討事項 登山教室、TozanFes、袖ヶ浦中学校林間学校ボランティア、支部だより63号、入退会者報告

○10月報告 10月18日(水)リモート(松田、三田、山口、三品、甘楽、今井、宇津木、上村、三田芳)

◇山行・行事報告 9/23~24 全国支部懇、9/23 大原地区ウォーク、9/30~10/1 登山教室・赤岳鉱泉、10/13~14 一の倉沢出合、10/14 金峰山、那須岳、小川山、ボルネオ旅行

◇山行・行事予定 信越トレイル、光岳、二ツ箭山、下町ウォーク、4支部懇、高原山、晴香園、檜洞丸、復興PJハイク

◇報告・検討事項 登山教室、晚餐会・記念ハイク、TozanFes、入退会者報告

○11月報告 11月15日(水)リモート(松田、三田、山口、小川、三品、今井、上村、三田芳)

◇山行・行事報告 10/20~23 信越トレイル、10/27~28 二ツ箭山、10/28 下町ウォーク、11/3~4 四支部懇、11/10~11 高原山、11/11 鎌倉(晴香園)、11/12 檜洞丸

◇山行・行事予定 復興PJハイク、登山道整備・忘年会、浜石岳、成田ウォーク、養老溪谷、高宕川、北八ヶ岳

◇報告・検討事項 晚餐会と記念山行、TozanFes、来年度事業計画、入退会者報告

●会員・会友の動向

《入会・会員》

DOさん(17182) 千代田区

KFさん(17185) 大和市



《入会・会友》

CSさん 千葉市

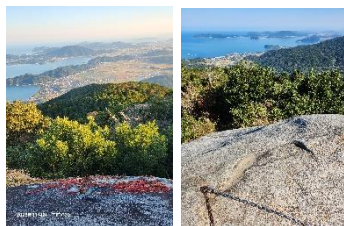


《退会》

YNさん

《物故》

千葉支部だより第63号に「あの日の山」を寄稿された前田栄三さん(11766)が11月14日御逝去されました。80歳。ご冥福をお祈りいたします。



編集後記；出羽三山、大峯山と並び日本三大修験道の一つである福岡県の峰入り古道の一部を歩いてきました。西側の大宰府近くの豊満山、東側の英彦山、そして、中間の古処山です。やはり、登山道に独特の雰囲気があり、その雰囲気にも励まされつつ歩きました。出羽三山は未訪問地なので、近いうちに訪れようか思っています。75歳からは島旅などをゆっくりと楽しみたいと思う今日この頃です。
津田沼のヨシキスポーツさんにはSAC教室会場の提供ほか、千葉支部として大変お世話になっています。山用品を購入するときは是非ご利用して頂きたいと思います。会員になると割引があります。(小川和敏)